

# 平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立敷島中学校

## ■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

## ■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部分」であることをご理解ください。

## 1 調査結果について

### ■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語の平均正答率は「知識」をみるA問題、「活用する力」をみるB問題とも、全国の平均より低く課題がみられます。A問題では、文脈に即して漢字を正しく読むことに関しては平均に近い数値となっていますが、事象や行為などを表す多様な語句の意味を理解し、適切に使うことに課題がみられます。B問題では相手の反応を踏まえながら、相手にわかりやすい語句を選択し、話すこと、文を構成することに課題がみられました。全体的に「言語についての知識・理解・技能」がA問題・B問題とも一番低い数値となっています。
- ・数学の平均正答率はA問題、B問題とも、全国の平均より低く課題がみられます。数学A問題では関数の問題の正答率が低く、原因として用語の意味の理解を含め、基礎的・基本的な内容が定着していないことが考えられます。これは、評価の観点の中で「数学的な技能」がA問題・B問題とも全国の平均に比べ一番低いことから読み取れます。一方、資料の活用の問題はA問題・B問題とも全国の平均に近い数値となっています。

### ■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・良い傾向が認められる項目  
「朝食を毎日食べる」「毎日同じ時間に寝る（起きる）」「家の人は授業参観や学校行事に来ますか」「話し合いの時に友だちの考えを聞く」「授業で学んだことを、他の学習や普段の生活に生かそうとしている」の質問に関して、全国より高い数値を示しました。
- ・課題となる項目  
「家で学校の宿題をしていますか」「家で、授業の予習をしていますか」「自分の意見を発表することは得意ですか」「友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができますか」について、全国より低い数値を示しました。家庭でゲーム（スマートフォン、コンピュータ）をする時間が全国より多い傾向にあります。

## 2 これからの取組について

### ■学校で取り組んでいくこと

- ・学習内容を定着させ、発展的な学習を展開できるように、授業の始めに目標（めあて）について示し、終わりに学習内容の振り返りを行い、ノートにまとめる活動に取り組みます。
- ・個人の考えを深め、自信を持って意見を表現できるように、授業の中に個人やグループによる話し合いを取り入れる活動を行います。
- ・自主学習に工夫して取り組んでいる事例を紹介し、自ら家庭学習に取り組める活動を取り入れます。
- ・人の気持ちを思いやる、また、人の役に立とうと考えられるように道徳の授業を充実させます。
- ・国語科においては、言葉の意味や使い方の基礎を反復練習します。また、理由と根拠を明確にして自分の意見を表現（話す・書く）する活動を行います。
- ・数学科においては、既習事項を振り返りながら、授業を進めます。また、基礎的・基本的な計算技能の定着をはかるために定期試験に取り入れたり、小テストを行ったりします。

### ■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・スマホやゲームの使用時間のルールを作り、読書や学習の時間を確保できるようにしていきましょう。
- ・家庭学習を習慣化し、学習の様子を確認しながら自主的な学習ができるように声をかけてください。
- ・新聞やテレビニュースの視聴や家族との会話を通して、社会に関心を持つように働きかけてください。